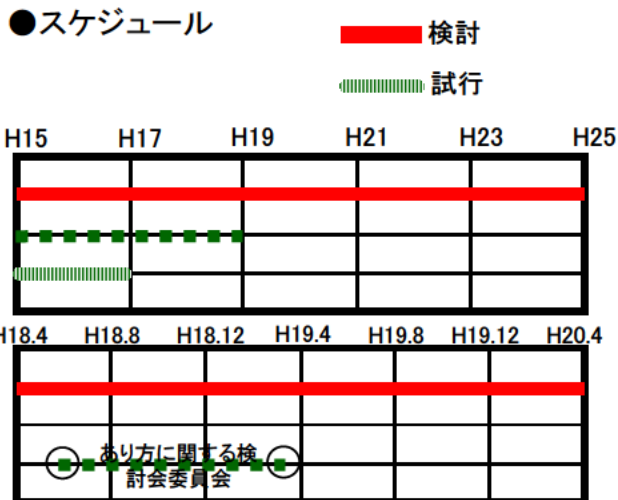


流水保全水路

●具体的な整備内容  
流水保全水路については、継続して調査し、今後の整備方針について検討する。



●検討内容

- ・オープン水路における生態系の回復
- ・継続実施の調査・検討
  - 1) 部分運用施設実験
  - 2) 部分運用モニタリング調査
  - 3) 流水保全水路内浄化実験
- ・適切な評価手法による事業評価
- ・モニタリング結果、事業評価結果に基づいた方針検討

●部分運用関連調査

1) 部分運用施設実験

①浸透浄化実験

水質項目 : BOD、SS、ph、COD、色度、各態の窒素・リン、大腸菌群数等  
 調査頻度と地点 : 毎月1回以上、オープン水路水と地下浸透水を取水管から採水  
 その他 : 微量有害物質等を適宜検討により追加実施、地下水涵養の効果の把握

②土壌影響調査

土壌の性状 : 外見、臭気発生の有無、内部の粒度組成、強熱減量  
 調査頻度と地点 : 1年に1回程度、任意に3地点程度設定して実施  
 その他 : 浸透開始前と浸透開始後の地下水位の変化

2) 部分運用モニタリング調査

水質調査 : 地点: 鳥羽(礫間、木炭)取水・流末、幹線水路内、桂川(宮前橋、大山崎下流)  
 項目 : 水温、SS、BOD、NH4-N、T-N、T-P、色度、陰イオン界面活性剤  
 通水量調査 : 地点: 鳥羽(礫間、木炭)取水・流末、幹線水路内  
 項目 : 流量(流速、水位)

3) 流水保全水路内浄化実験

環境ホルモン(ビスフェノールA、ノニルフェノール類、17β エストラジオール等)の除去方法を検討、実験

●イメージ図(浸透浄化実験箇所)



**整備効果**

淀川流水保全水路は、利水障害の回避、河川環境の整備と保全、水質事故の危機回避、これら3つの機能を総合的に発揮し、安心できる水源、多様な生物の生息環境、都市近郊の貴重な親水空間を確保する。

**利水障害の回避**

- ・下水道及び上水道と相互補完して多重的に水源の安全性を確保することは有効
- ・木津川、宇治川を含めた広域的検討も必要

**河川環境の保全と整備**

- ・多様な生物の生息環境の場合、都市近郊の親水空間として有効
- ・オープン水路とすることで親水性の向上、新たな生態系を創出する役割がある
- ・本川水質の改善に寄与し、生態系保全に貢献する役割がある。

**水質事故時の危機回避**

- ・水道水源の安全性を多重的に向上できる
- ・支川からの有害物質を取り込むことで、河川水のリスク低減に寄与できる

**提案理由****1. 箇所決定理由(優先順位)**

淀川の主要な汚濁源となっている中下流部における支川や下水処理排水を本川に合流させることなく分離・流下させることにより、主要な汚濁流入地点と取水地点の位置関係を改善し、もって淀川の水質回復及び多様な生物・生息環境の保全を図る。

**2. 具体的検討手法****流水保全水路整備事業における検討**

- ・環境に応じた施設計画の見直し
- ・多様な機能と影響の検討
- ・京都府域の既存施設の活用
- ・事業効果の詳細な検討と投資妥当性の検討
- ・事業に関する双方向のコミュニケーション

**委員会等からの意見****進捗状況報告**

オープン水路に関する検討、部分的に完成した箇所を用いた浄化効果等に関する検討、接触材による浄化効果に関する検討等施設計画に関する部分と、事業効果の詳細な検討及び投資妥当性に関する検討を平成17年度までに実施した。

これらの結果をもとに事業のあり方に関する検討会等を開催し、今後の事業の方向性について詰める。

**進捗状況報告**